

## 1. 単元 まとまりに気をつけて読もう ～ありの行列～

## 2. 目標

- ・書かれている事柄に興味・関心をもち、また、「段落」「接続語」「文末」などに着目して文章を分析的に読むことを楽しんでいる。(国語への関心・意欲・態度)
- ・「問い」と「答え」、段落ごとの要点を正しくつかみ、叙述に即してありの行列ができるわけを理解することができる。(読むこと)
- ・指示語・接続語や文末表現に注意して読み、段落の役割を理解することができる。(言語についての知識・理解・技能)

## 3. 指導にあたって

## (1) 教材について

「ありの行列」は、問題提起、実験・観察・研究、結論の展開になっている説明文である。問題を示し、それを解明するための実験・観察から考察が述べられている。そして、それに基づく研究から結論を導き出している過程が書かれた文章の展開である。「なぜ、ありの行列ができるのでしょうか」という問いに対して、ウイルソンが行った実験の内容や、ありの動きから考えたことや観察から、答えを読み取っていくことが要旨をつかむことにつながると考えられる。ありの行列は、誰もが一度は見たことはあると思われるが、『なぜ』と思って見る子は少ないかもしれない。それで、ありの行列のできるわけについて興味をもって読み進めながら、叙述に即して正しく読んでいかなければならないと考える。本文は、指示語や接続語、文末表現を手がかりにして読みすすめていけるようになっている。挿絵も読み取りの手助けになるだろうと思われる。

## (2) 児童の実態

文は、すらすらと読める子が多いが、言葉から想像したり、気持ちを考えたりできる子は数人である。「きつつきの商売」では、登場人物の気持ちを、文に書かれている言葉をそのまま用いて言うことはできるが、文の言葉から想像して言える子は、限られた子だけであった。

自分の意見を発表する際、間違えたら恥ずかしい、わからないのは恥ずかしいと思っている子が、男子にも女子にも多い。それも、想像したことを自由に言えない原因になっているのかもしれない。積極的に発言する子は数人で、わかりやすく話したり、声の大きさを考えたりして話せないのが、聴く子も反応したり、集中して聴くということができない。4月から「反応しよう」「同じか違うか考えながら聴こう」と声かけはしているが、友達の話がわかったのか、どのように思ったのか表情にも出ない子がほとんどなので、広めたり深めたりするための手立てを探っている最中である。

そこで、本時では、文に書かれている言葉を正しく読むことを大切に、何と書かれているか本文に戻って考えるようにする。そして、視覚に訴えたり、言葉の意味を考えたりしながら、読み進めていくようにする。

## (3) 「自ら考え、学び合う子」をめざして

**重点 子どもが学び合うための支援**

文に書かれていることや言葉を大切にしながら読み取っていきたい。そのためにも、音読を多く取り入れ、接続語の意味や指示語のさす言葉や文を考えながら読み進めていく。そうすることが、次に説明文を読み取っていく力となっていくだろうと考えるからだ。

本時では、ウイルソンが行った初めの実験で、ありがたことを読み取っていく。

- ・課題について興味を持って考えられるように、ウイルソンのしたことを黒板に絵で表したり、「問い」を意識させたり、課題意識を強めたりするために、「ありは、行列をつくったか」と問いかける。
- ・言葉や文に目が向くように、段落番号や文番号をつけ、考えを持つ段階では、ありの動きのわかるところに線を引く。
- ・これから説明文の文章構成や内容を読み取れるように、「しばらくすると」「やがて」「すると」「これ」「その」などの言葉から、ありの動きを詳しく読みすすめていく。(思考力)
- ・ありの絵を子どもたちと作り、高める段階でそれを動かすことで、言葉の意味や文に書かれていることを確かめ、他のありは、初めのありがたりに通った道筋を通っていることが読み取れるようにする。(判断力)
- ・振り返りでは、毎時間読み取ったことで分かったこと、初めて知ったことなどを書くことで次時につながるようにする。

#### 4. 指導計画（総時数 12 時間）

次	学習のねらい	主な学習活動	主な支援と評価規準
第一次 あて を持つ 3 時間	・学習のめあてを持つことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありについて、知っていることを出し合う。</li> <li>・全文を読む。</li> <li>・一人学習をする。</li> </ul> <p>&lt;全文を読み、感想を出し合おう。&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を出し合い、読みのめあてをもつ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ありはものがよく見えないのに、行列ができるのは不思議だ。 ウイルソンは、どのようにして「なぜ、ありの行列ができるのか」の答えを見つけたか考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○感想をノートに書くことで全員が発表をできるようにする。</li> <li>○感想発表を段落ごとに板書することで、全文のあらすじやまとまりをとらえやすくする。</li> </ul> <p><b>関</b>ありに興味を持って読み進めている。 (感想・発言)</p>
第二次 叙述 に 即 して	・各段落の内容を叙述に即して読み取り、要点をつかむことができる。	<p>&lt;「ありの行列」の「問題」は何だろう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ありはものがよく見えません。それなのに、なぜ、ありの行列ができるのでしょうか。」と書いてある。</li> </ul> <p>&lt;「問題」だと分かるのは、どうしてか&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「なぜ」、「～できるのでしょうか」があるから。</li> </ul> <p>&lt;「答え」を見つけたのはだれだろう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウイルソンだ。</li> <li>・まず、初めにウイルソンは、何をしたかを読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「それなのに」という言葉や動作化から、普通はできないのに、できていることから疑問を持つことになることを考える。</li> </ul> <p><b>読</b>言葉に気づき、問いの文を読み取ることが出来る。(発言・ノート)</p>

内容を 読み 取る 7 時間	<p>&lt;ありは、どのように行列を作ったか&gt; (本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ さとうをみつけた後、列を作った。</li> <li>・ 働きありが巣に帰った後、次々とありが出てきた。</li> </ul> <p>巣からえさのあるところまで行列ができ、初めのありが、帰りに通った道筋から外れていなかった。</p>	<p><b>読</b> 初めの実験で叙述に即して読み取っている。 (発言・ノート)</p> <p>○道筋から外れていないを板書で読み取れるようにする。</p>
	<p>&lt;ウイルソンは、次にどんな実験をしたか。&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大きな石を置き、ありの行く手をさえぎった。</li> </ul> <p>&lt;石を置くと、ありはどうなったか。&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ちりぢりになっても、道を見つけて進んでいった。</li> <li>・ 帰るときも行列の道筋はかわらなかった。</li> </ul> <p>大きな石を置いても、行列の道筋はかわらなかった。</p>	<p><b>読</b> 石を置いた時の実験で叙述に即して読み取っている。(発言・ノート)</p> <p>○ありの絵を動かすことで、「ちりぢり」や「ようやく」などを読み取れるようにする。</p>
	<p>&lt;2つの実験からウイルソンは何を考え、どんな研究をしたか。&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道しるべを出しているのではないかと考えた。</li> <li>・ 体の仕組みを細かに研究した。</li> </ul> <p>おしりから、特別の液を出すことが分かった。</p>	<p><b>読</b> 体の仕組みについて、読み取っている。 (発言・ノート)</p> <p>○特別の液について、においがあり、蒸発しやすいということは、どういうことかを考える。</p>
	<p>&lt;ウイルソンが見つけた行列ができるわけは何か。&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地面に液をつけながら帰る。</li> <li>・ においに添って歩く。</li> </ul> <p>&lt;えさが多いほど、においが強くなるのはなぜか。&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何回も通るから、液も多くなる。</li> </ul> <p>液のにおいをたどって、えさの所へ行ったり巣に帰ったりするので、ありの行列ができる。</p>	<p><b>読</b> わけについて叙述に即して読み取っている。 (発言・ノート)</p> <p>○文から読み取ったことをありの絵をうごかすことと板書で何回も通ること、液が多くなることを押さえる。</p>
<p>第三次 まとめ 2 時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習したことを振り返ることができる。</li> </ul>	<p>&lt;それぞれの段落をまとめ、つながりを考えよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1段落には、問題が書いてあり、その答えは、9段落に書いてある。</li> </ul> <p>&lt;ありの行列のできるわけを知って感想を書こう。&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いつも見ていたありの行列だけど、なぜできるかわかったよ。</li> </ul> <p>ありの行列のできるわけがわかった。目があまりよく見えないのにすごいな。ありの種類によって、においがちがうんだ。</p>	<p><b>読</b> 段落ごとに何について書かれているかをつかんでいる。 (発言・ノート)</p> <p>○段落ごとに、何が書かれていたか、まとめることで、他の段落とのつながりを考える。</p>

5. 本時の学習（第二次中2時）

- (1) 本時のねらい 初めの実験で行列のでき方を叙述に即して読み取ることができる。（読むこと）
- (2) 準備 ありの絵
- (3) 本時の展開

段階	学習活動	時間	教師の働きかけと予想される児童の反応	支援○と評価規準□ (方法)
つかむ	1.学習課題をつかむ。	7	○ウイルソンは、初めに何をしたか。 ・一つまみの砂糖をおいた。	○黒板に巣、砂糖をかき、課題をつかみやすくする。
	2.自分の考えをもつ。	5	○ありは行列を作ったか ・「列を作って」とあるから作った。	
考えをもつ	3.考えについて話し合う。	20	<ありは、どんなふうに行列を作ったか。> ○3段落を読み、ありが行列を作るまでにしたことに線を引こう。 ○考えを発表しよう。 ・一匹のはたらきありが、砂糖を見つけた。 ・「しばらくすると」だから、あちこち動き回って見つけた。 ・ありは、巣に帰った。 ・「やがて」と書いてあるから、すぐには帰っていない。 ・たくさんのありが次々と出てきた。 ・列を作って、砂糖のところまで行った。 ・はじめのありが、巣に帰るときに通った道筋から外れないで、行列を作って帰った。	○3段落を1文ずつ読み、何が書いてあるか考えるように声かけをする。
	4.ありの絵を動かして確かめる。	10	○ありの絵で確かめよう。 ・はじめのありは、えさを探している。 ・巣から出てきてから、列を作っている。 ・巣から砂糖まで列を作って行った。 ・はじめのありが帰りに通った道筋を通る。	○「しばらくして」「やがて」「そして」などから、ありの動きを確かめながら読む。 <b>【活用力】</b>
高め合う			○えさを見つけたはたらきありが、やがて巣に帰る。すると、巣の中から次々とたくさんのはたらきありが出てきて列を作ってさとうの所まで行った。はじめのありが巣に帰るときに通った道筋から外れていない。	○ありの絵を動かすことで、接続語や指示語の意味を再確認したり、読み取ったありの動きを確かめたりする。
まとめる	5.振り返りをする。	3	○わかったこと、思ったことを書こう。 ・目がよく見えないのに、初めのありの通ったところを次々と行くんだな。	○読 初めの実験で行列のでき方を叙述に即して読み取っている。 (発言・ノート) ●板書のキーワードに着目してまとめるよう声をかける。

(●到達できなかった子への支援)